

三太郎はかまをとった。

「何する。」

「とぎます。」

「といでどうする。」

「どうもしません。士は刀を持っています。百姓はカマ持って悪いですか。チョット待って下さい。とぎますから。」

三太郎はゆっくりカマをとぎだした。指の爪で切れ味をみながら。そしてきれるカマをわらでくるんだ。そして家の中でふるいている女房に大きな声で叫んだ。

「カカア、ゆくぞ。あとはたのむ。」

門口を出ると士はいった。

「三太郎、お前はりっぱだ。あとはおれがとりなす。」

といってトットと帰っていった。